



ありのままがあたりまえの社会

校長 赤松 弘一



12月7日に人権講演会が開催されました。今回は『自分らしく生きる』というテーマで、真道ゴーさんにご講演いただきました。密集によるコロナ感染を防ぐために、真道さんには、学年別に3回に分けて講演していただきました。

真道さんはご自身が子どもの頃から「性同一性障害」、自分の心と体の性別の不一致を感じていました。誰にも相談できずに、悩み、苦しみ、傷ついて生きてきました。そして二十歳を過ぎた頃にいろいろな人との出会いの中で、「自分を隠さず、偽らず、ありのままに幸せを求めていこう。先のことに悩むより、今を全力で頑張ろう」と決意しました。そしてボクシングに打ち込み、世界タイトルを手に入れました。結婚して会社を経営する一方で、講演活動も行っておられます。

真道さんは言われます。「たくさんの苦しみや悲しみを知ったことで、幸せを感じられるようになった。自分を好きになれない人は、他者からも認められない」そしてまた、「生まれたことには理由がある。ありのままの自分を認めることが大切です」と言われました。

性同一性障害と「SOGIE・LGBTQ+」

SOGIEは S O 【Sexual orientatin: どんな性を好きになるか】
G I 【Gender Identity: 自分はどんな性だと感じるか】
G E 【Gender Expression: どんな性を表現するか】

のことですが、全ての人が同じ好みや同じ捉えをするわけではありません。多数派の人とは異なる SOGIE の人も1割弱います。それらの人を LGBTQ+と表現しますが、それが少数派であっても、その気持ちや好みは尊重されるべきであり、安心して自分らしく暮らせることが求められます。明石市はそんな LGBTQ+を含む誰もが互いを尊重し合える「ありのままがあたりまえのまち」の実現を目指しています。

世界中で、今この SOGIE に対する相互理解や LGBTQ+に関する差別の解消が進んでいますが、国によって人によってまだ格差が大きいのが現状です。大切なことは一人ひとりが他者を思いやる気持ち、また様々な立場や状況に共感できる心を持つことだと思います。それが広がれば、性の多様性に対する意識だけではなく、社会に残る様々な差別が解消されていくと思います。

日本の学校でも生徒名簿が男女別から男女混合の名簿に変わりました。また高校受験の願書からは性別の欄が無くなりました。人を認識する際に、男か女かという枠付けが必要でない社会に変わりつつあります。学校では、性差により分けられていた制服についても変わりつつあります。本校でも令和4年の4月から、女子にもスラックスを準備してまいります。これは性の多様性の問題だけではなく、健康面なども考慮しています。

多様な人の在り方を認め合う社会で、いままでの「あたりまえ」についてもう一度見つめ直し、「ありのままがあたりまえ」の学校をつくっていきましょう。

学校では授業でタブレットを使っての学習も進めています。学習への興味付けや、効率よく演習したりするのに役立てていきたいと思っています。裏面にはみんなの学習クラブの活用について載せています。